

# 平成24年度補助事業の完了後の成果・波及効果

(補助事業完了後1年を経過した平成24年度補助事業の状況について)

## 1. 補助事業の成果・波及効果に関する調査について

平成24年度に実施した補助事業の評価については、既に事業完了直後に提出された自己評価書を基に、①個別のJK A評価を行い、②補助事業の分野別評価、全体の評価として取りまとめた。これらの内容については、平成26年6月に「RING! RING! プロジェクト」ホームページに掲載している。

本資料は、引き続き平成24年度補助事業の完了後1年を経過した時点における社会への浸透、成果・波及効果について取りまとめたものである。以下、その事例を紹介する。

## 2. 平成24年度補助事業の成果・波及効果

### I. 機械工業振興補助事業

#### (1) 重点事業

##### ① 安全・安心に資する取り組み

##### a. (一財) デジタルコンテンツ協会

##### 〈救助ロボット搭載用立体視機能の調査補助事業〉

##### 〈平成24年度補助事業の概要〉

救助ロボットに立体視機能を搭載することにより、迅速、且つ、的確な状況把握を行い、人命救出の確率を上げる可能性を検証することを目的に、立体視機能の効果調査と適用領域を明確にするための調査研究事業を行った。



被験者実験

〈成果・波及効果〉

本事業の成果は、災害対応ロボットにおける両眼視による自然で直感的な奥行き感に加え、覗き込み動作による運動視の効果について示したものであり、今後同ロボットへ立体視機能を搭載する足がかりとして重要な成果を得た。

- ①ホームページに掲載した本事業の成果報告書(PDF)は平成 26 年 2 月末時点で 1252 部と、当初の予定の 4 倍以上のダウンロード数を示した。
- ②本事業委託した大学と大手建設会社が本事業の成果を基に共同提案を行い、国土交通省の事業に選定された。

b. (一財) 光産業技術振興協会

〈レーザー機器の安全・安心に関する調査研究補助事業〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

- ・ レーザ機器の安全性に関する標準化等の国際動向を調査し、その情報をもとに国際規格 3 件を選定して和訳を実施。
- ・ レーザーの安全性を啓蒙するシンポジウムを開催。



シンポジウム会場風景

〈成果・波及効果〉

- ①レーザー学会の安全 WG の平成 25 年度報告書に、平成 24 年度補助事業の調査研究報告書が引用された。また報告書を閲覧した経済産業省製品安全課から当協会に携帯用レーザー応用装置に係るヒアリングがあった。
- ②IS011553-1 の和訳を活用して日本が主となり第 2 版の改正プロジェクトが始まった。IEC60825-1 の第 3 版が発行されたが、この改正プロジェクトを議論するに当たり解釈票 1&2 の和訳が活用された。

## ② 国際競争力強化に資する標準化

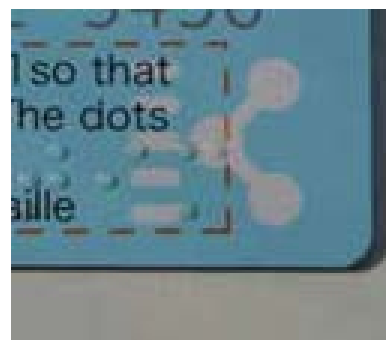
(一社) ビジネス機械・情報システム産業協会

〈ISO 事務機械国内委員会国際標準化事業〉

### 〈平成 24 年度補助事業の概要〉

国際標準化を推進することで複数の機器間で性能の比較や操作性、互換性などに差がない環境を構築していくことを目的に、オフィス機器(SC28)の分野で 9 件、ユーザインタフェース(SC35)の分野で 7 件、IC カードは技術の向上に伴って新規な使用方法が提案され、新たな標準化を進める必要があることから、カードと個人識別(SC17)の分野で 14 件、合計 30 件の国際標準を 49 回の国際会議に参加し発行した。

また合わせて 74 件の標準化案件の審議を毎月 1 回程度の委員会と傘下のワーキンググループで実施した。



### 〈成果・波及効果〉

①凸記号付の IC カード標準が国内の銀行カードで採用された。

②オフィス機器のいくつかの仕様書様式標準はほとんどの製品で採用され、ユーザーが製品を比較する際の利便性をあげている。

③オフィス機器の分野で策定した 2 つの国際標準とアクセシビリティを考慮したユーザーインターフェースについて、より普及をはかるために JIS 化の作業を進めている。1 件は平成 26 年度中を目途に申請の予定で他の 2 件はドラフトが完了した状況である。

③ 公設工業試験研究所等の設備拡充\*

栃木県

〈企業単独では導入が困難な機器の整備事業〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

機器開放、依頼試験、技術相談などに活用し、ものづくり企業を全面的にバックアップするため、「自動研磨装置」、「高速度ビデオカメラ」など、企業単独では導入が困難な機器を整備した。



高速度ビデオカメラ

〈成果・波及効果〉

平成 24 年度事業において導入した高速度ビデオカメラを使用し、行った研究開発の成果を

- ① 栃木県産業技術センターの研究報告に活用した。
- ② 国内外の学会で発表した。

導入機器の利用状況

(2) 一般事業

① ものづくり支援

(公財) ちゅうごく産業創造センター

〈中国地域のものづくり高度化支援補助事業〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

「世界を変えるスーパーコンピュータ”京”の開発とその可能性」をテーマに産業創出講演会を開催し、企業、大学、研究団体、一般から計 215 名の参加者があった。



〈成果・波及効果〉

講演テーマに関連した内容で、次のステップである、「新産業創出研究会」を以下の 2 件立ち上げられ、1 件は事業化に向けた検討が進められている。

① タブレット型情報端末を用いた運動弱者のための視線入力システムの研究開発

② 磁気測定による溶接部の構造及び接合強度の画像化研究

② 地域における中堅・中小企業の振興

(一財) 九州産業技術センター

〈九州の成長戦略に基づく事業創出推進補助事業〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

九州の産学官で構成する委員会で策定された「九州成長戦略アクションプラン」の一翼を担い、国等の施策が届かない揺籃期の研究開発型中堅・中小企業に対して、技術開発支援のための技術シーズ・ニーズのコーディネ



事業推進委員会

ータ活動及び事業化支援のための事業プロデュース活動を行う事業を展開しており、採択した委託調査 6 件についての事業化調査研究会を延べ 18 回開催するとともに、コーディネータによる、事業プロデュース活動を行った。本活動で発掘した技術ニーズ・シーズ 140 件の事業化へのステージアップを行った。



〈成果・波及効果〉

- ①25 件のマッチングに成功、コーディネータ研究会を延べ 43 回開催し事業化へのステップアップを図った。
- ②連絡会を 4 回開催し、活動の管理、情報交換を行った。

↓

- ③国プロジェクトの応募事業 6 件
- ④事業化候補となった事業 3 件

(3) 研究補助

岐阜大学工学部機械システム工学科 三宅卓志

〈製造時に発生する未利用炭素繊維の有効利用に関する研究開発〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

製造過程における繊維端材の発生率が高い炭素繊維強化材 (CFRP あるいは CFRTF) 使用の増加に伴い、発生量が増大すると想定される炭素繊維端材の有効再利用のために、炭素繊維の不織布化技術の開発を目的とし、製造時に発生する未利用炭素繊維の有効利用に関する研究開発を行った。



無機バインダで形状固定した不織布

〈成果・波及効果〉

平成 25 年 6 月に、「炭素繊維マットの製造方法及び製造装置」の特許出願を行うに至った。

II. 公益事業振興補助事業

(1) 公益の増進（重点事業）

① 自転車・モーターサイクル

a. (N) ツール・ド・北海道協会

〈自転車競技の普及促進〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

- ・ ツール・ド・北海道 2012 の開催
- ・ 道北・道央を中心とした総走行距離 516km、3 日間のロードレース
- ・ 国内外 19 チーム 95 名が参加、併催した市民レースには 1,320 名が参加




〈成果・波及効果〉

この大会の競技運営等に係るノウハウを参考として道内でサイクルイベントの企画が新たに立ち上げられており※、自転車競技の拡充に波及効果があった。

- ※アイアンマンレース（洞爺湖町）
- 留萌ヒルクライム（留萌市）
- ニセコクラシック・サイクルレース（倶知安町）、
- 上富良野ヒルクライム（上富良野町）など



b. (公財) 日本自転車競技連盟  
 〈自転車競技の強化・普及促進〉


|                                                                                                                              |                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈平成 24 年度補助事業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本自転車競技連盟(JCF)、国際自転車競技大会公認競技大会に関する強化活動及び競技大会の開催等</li> </ul> |  <p>女子エリートチームパシュート日本記録更新 (アジア自転車競技選手権 インド)</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈成果・波及効果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニア層から一貫し、世代が切れることがない選手強化を図り、東京五輪でのメダル獲得に向け、強化策の充実を図っている。</li> </ul> <p>〈平成 25 年度 に更新された日本記録一覧〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンディングスタート 1km 男子エリート、男子ジュニア</li> <li>・スタンディングスタート 500m</li> <li>・男子チーム・スプリント 250m×3</li> <li>・女子チーム・スプリント 250m×2</li> <li>・女子チーム・スプリント 400m×2</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 文教・社会環境

(一財) 日本自転車普及協会

〈自転車と人にやさしい健康で安全な社会作りの推進〉

|                                                                                                                                                                         |                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈平成 24 年度補助事業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動、『自転車市民権宣言』署名活動</li> <li>・自転車に関する企画催事</li> <li>・自転車安全利用教室 等</li> </ul> |  <p>自転車市民権宣言署名用紙</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|



〈成果・波及効果〉

①4年間の全国的な署名活動の結果、署名件数が目標数3万件達成

↓

②「自転車市民権大討論会 2014」において、自転車市民権確立のための製作立案・実現を要請する国民の声として自転車活用推進議員連盟に署名提出

※2014年4月21日、自転車活用推進議員連盟より東京都知事に自転車活用のための提言の申し入れを行っている。提言には市民権宣言の内容も盛り込まれており、議連活動の推進力の一助になっている。

③ 国際交流

(公財) ジョイセフ

〈再生自転車海外譲与〉

〈平成24年度補助事業の概要〉

- ・ベナン、タンザニア、カンボジア、ガーナ、ザンビアの5か国に各450台ずつ寄贈
- ・再生自転車は現地保健ボランティア、保健医療従事者による保健推進活動で活用
- ・妊娠の仕組みや家族計画の方法を説明



妊婦を出産待機所まで運んできた母子保健推進員（ザンビア）

〈成果・波及効果〉

自転車を活用する保健ボランティアの巡回啓発活動が効率よく実施できるようになり、今まで自宅で出産した多くの女性が徐々に診療所での出産に移行するようになった。

(2) 公益の増進（一般事業）

① 体育・スポーツ

a. (N) 栃木スポーツコミッション

〈国内スポーツ競技力の向上〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

- ・宇都宮サイクルピクニック 2012 大会
- ・宇都宮市を中心とする観光名所を巡るサイクルイベント
- ・参加者 923 名



〈成果・波及効果〉

栃木県内におけるサイクルイベントとして那須岳ヒルクライムが新規で開催されており、サイクリングニーズの高まりが確認できた。

b. (公財) 日本体育協会

〈国民スポーツの振興〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

- ・第 67 回国民体育大会及びブロック大会、日本スポーツマスターズ大会の開催
- ・シニア・リーダースクール実施(参加者 105 名)
- ・スポーツリーダー養成講習会 (参加者 12,341 名) 等

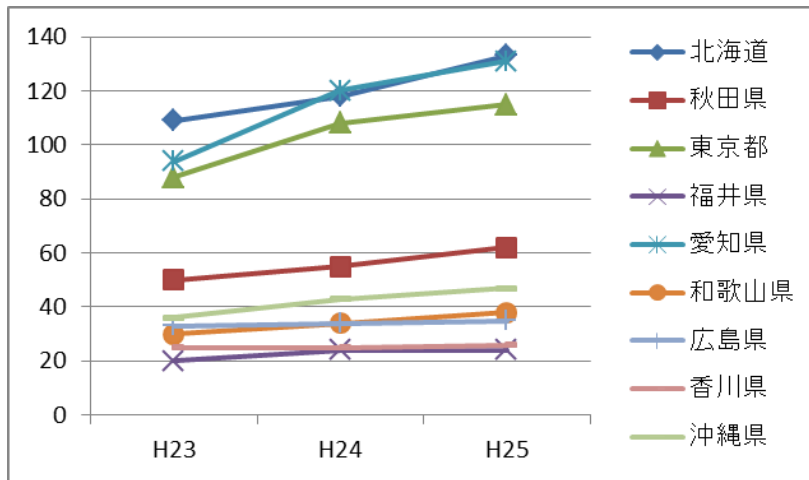


〈成果・波及効果〉

国体前後と比較して、ブロック大会の開催地における総合型地域スポーツクラブ<sup>※1</sup>数は増加をしており、生涯スポーツの振興が図られた。

※1 総合型地域スポーツクラブとは、「地域の人々に年齢、興味関心、技術技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する、『多種目』『多世代』『多志向』のスポーツクラブ」

H24 国体ブロック大会開催県における総合型地域スポーツクラブ創設クラブ数推移



② 医療・公衆衛生

(公財) ちば県民保健予防財団

〈検診車の整備〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

- ・ 体位変換指示ビデオモニター付き胃部X線テレビ検診車の整備
- ・ モニターには手話通訳と体位変換の仕方が動画アニメーションで表示される



胃透視撮影風景

〈成果・波及効果〉

- ・聴覚障害者や高齢者など体位変換の指示への対応が困難であった受診者が、スムーズな体位変換を行えるようになった結果、良好な撮影が可能となり、また、受診者の不安が軽減された。

平成24年度に整備された聴覚障害者等対応装備検診車

| 補助事業者名          | 特別装備                           | 受診人数* |
|-----------------|--------------------------------|-------|
| (公財) ちば県民保健予防財団 | 聴覚障害者等対応モニター付き検診車              | 50人   |
| (公財) 栃木県保健衛生事業団 | 体位変換補助装置<br>(聴覚障害者用胃部検診支援システム) | 15人   |

※稼働開始から平成26年3月末までの聴覚障害者の受診人数

検診車の利用状況

- ・平成24年度整備検診車＝合計20台  
⇒平成25年12月末までの総受診者数は179,056人

③ 文教・社会環境

(公社) 日本クラフトデザイン協会

〈学術・文化の振興のための活動〉

〈平成24年度補助事業の概要〉

- ・第52回日本クラフト展の開催
- ・作品点数1,137点
- ・入場者数7,937名
- ・クラフトデザインの向上を図り、生活文化の発展に寄与する優秀なクラフトマンの発掘や次世代の育成を目指す



〈成果・波及効果〉

応募者には若い世代の応募が増え、その質は向上している。また、本事業は台湾、韓国での発表を経て、フランスでの海外展示へ波及した。

(3) 新世紀未来創造プロジェクト

(N) 自然環境アカデミー

〈実践的研究を通じた人間力育成支援活動〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

多摩川上流部において、

- ・ ライフジャケットを着て顔を出して流される練習等
- ・ 漁業の取り組みや川原での火の扱いやマナーについて学習
- ・ 虫取り等生き物についての学習や砂鉄集め



【第1回体験活動】多摩川で泳ごう！  
川遊びの危険について知り、自分の身を守る方法を学ぶ

〈成果・波及効果〉

・ 参加した子どもたちは、継続的に野外事業に参加しており、6 人の子どもがジュニアリーダーとなっている。

(4) 社会福祉の増進

① 児童福祉事業

(認N) 難病のこども支援全国ネットワーク  
〈サマーキャンプ「がんばれ共和国」の開催〉

〈平成 24 年度補助事業の概要〉

平成 24 年度事業で 21 年目を迎える、難病や慢性疾患、障害のある子どもとその家族を対象としたサマーキャンプ「がんばれ共和国」を全国 5 ヶ所で開催した。各地のキャンプとも、ボランティアとして医療・教育・福祉の専門職や学生、社会人たちが参加し、地元の医療関係者の協力によって「安心と安全」のモットーのもと実施した。



〈成果・波及効果〉

- ①難病や慢性疾患、障害のある子どもとその家族同士、あるいは家族とボランティアの交流が活発に行なわれるなど、家族や世代を超えた経験の交流やまなざしの交換の場となった。  
↓
- ②各地域に家族相互・医療・教育・福祉関係者などによる横断的なソーシャル・サポート・ネットワークの構築が図られ、その結果、難病や慢性疾患、障害があっても、その人らしく生活をするための可能なインクルーシブな社会の実現にも寄与した。  
↓
- ③サマーキャンプ「がんばれ共和国」に参加している家族や医療・教育・福祉関係者などによって、山梨県北杜市に常設キャンプ場を建設する計画「あおぞら共和国」が始動し、平成 26 年 7 月より利用開始に至った。



## ② 障害者福祉事業

### (福) 江能福祉会

#### 〈障害者グループホーム・ケアホームの建築整備〉

##### 〈平成 24 年度補助事業の概要〉

広島県江田島市における初の障害者の夜間支援施設（障害者グループホーム・ケアホーム）の建築整備を行った。



##### 〈成果・波及効果〉

- ①入居している障害者は、日中活動では福祉事業所への通所や企業での就労をしており、福祉事業所へ通所している障害者においても一般就労することを希望する者も出てきており、意識の変化とともに障害者の生活・活動の新たな可能性が見えてきた。
- ②障害者の地域生活全般を支援していくため、本法人において、相談支援事業を平成 26 年 7 月 1 日開始予定で実施することとなった。

障害者ケアホーム等の利用状況

## ③ 車両整備等社会福祉事業

### (福) 筑紫会

#### 〈福祉機器（授産機器）の整備〉



##### 〈平成 24 年度補助事業の概要〉

就労継続支援 B 型事業のために平成 24 年度に授産機器（パン製造機器一式）の整備を行った。



ピザ窯




|                                                                                                                                                                                      |                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈成果・波及効果〉</p> <p>①お客様の前で自分の仕事を行うことで、やりがいを感じつつさらなる技術の向上に意欲を持ち始めている。</p> <p>②平均月額工賃 約 12,000 円 ⇒ 約 17,000 円<br/>↓</p> <p>③責任感が芽生えた。</p> <p style="text-align: right;">福祉機器の利用状況</p> |  |
|                                                                                                                                                                                      |  |

(5) 地域振興(東日本大震災復興支援)\*

(N) 森のライフスタイル研究所

〈被災者や被災地域が行う復興活動〉

|                                                                             |                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈平成 24 年度補助事業の概要〉</p> <p>千葉県山武市の津波にあった海岸保安林の復旧整備事業を行い、海岸保安林の復興をすすめた。</p> |  |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>〈成果・波及効果〉</p> <p>①被災地住民の生活環境の回復をはかるとともに、産業復興（海水浴等の観光産業ほか）やボランティア活動の継続性の向上に貢献した。</p> <p>②本活動で再生（復興）を図った海岸保安林の面積に植林した苗木は、活動期間終了後も適正に手入れ（下草刈り）を行ったことで順調に生育している。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③真摯な取組が評価され、急遽必要となった植林地周りに設置する竹柵（風や塩から苗木を守るための）の設置工事費用の手当も外部から工面することができた。

④下草刈り活動に、6社からの社員ボランティアが参加した。

### 3. 今後の成果・波及効果について

今回の取りまとめでは、平成 24 年度補助事業のうち、事業完了後 1 年が経過した時点で成果・波及効果が見られた事業について、一部の事例を紹介した。現時点では、事業完了時の自己評価で報告された内容を上回るような成果・波及効果が見られなかった事業もあったが、さらにこの先、波及効果や社会的インパクトが現れた事業については、今後の分野別評価の中で取りまとめていきたい。

以 上